

## 実務経験のある教員による授業科目の一覧表

リハビリテーション学部 作業療法学科

領域	授業科目名	単位数	実務経験
専門基礎分野	整形外科学Ⅰ（総論）	1	医師
専門基礎分野	整形外科学Ⅱ（各論）	1	医師
専門分野	作業療法学概論	2	作業療法士
専門分野	作業科学	2	作業療法士
専門分野	作業療法管理学	2	作業療法士
専門分野	作業療法評価学	2	作業療法士
専門分野	作業療法臨床推論	2	作業療法士
専門分野	生活行為向上マネジメント	1	作業療法士
専門分野	日常生活支援学	1	作業療法士
専門分野	機能代償学	1	作業療法士
専門分野	身体機能作業療法学	1	作業療法士
専門分野	高齢期作業療法学	1	作業療法士
専門分野	高次脳機能作業療法学	1	作業療法士
専門分野	認知症作業療法	1	作業療法士
専門分野	ヘルスプロモーション作業療法学	1	作業療法士
専門分野	職業リハビリテーション	1	作業療法士
<b>単位数合計</b>		<b>21</b>	



授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
整形外科学Ⅰ(総論)	演習	1単位 (30時間)	2年前期	関矢仁

授 業 概 要

運動機能や日常生活活動を障害する代表的な整形外科疾患の病因や病態生理、診断と治療の総論を学ぶことにより、整形外科疾患のリハビリテーションを行うために必要な基礎知識を修得する。

到 達 目 標

1. 運動器の構造と機能について説明することができる
2. 整形外科疾患に対する検査と診断の概要について説明することができる
3. 代表的な疾患の概要について説明することができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：講義時、関連するテキストの該当箇所を熟読して出席する  
事後学修：教科書と配布プリントによる復習を行うこと

対応	(DP1)	○	(DP2)	(DP3)
DP	(DP4)		(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	骨	骨の構造・生理・生化学・発生・成長・維持・病態・病理、骨の修復と再生	関矢仁
2	月 日	関節	関節の構造・生理・生化学・病態・病理、関節軟骨の修復と再生	関矢仁
3	月 日	筋骨格の構造と痛み	骨格筋および神経の構造と機能、痛みの定義・分類・生理学・評価・治療	関矢仁
4	月 日	検査と診断	視診、触診、四肢の計測と筋力評価、神経学的検査、機能評価、画像検査、検体検査、生体検査、他	関矢仁
5	月 日	保存療法と手術療法	保存療法の種類（安静、薬物療法、徒手整復、牽引法、固定法、他） 整形外科領域における手術の特徴、特殊な器具を用いた手術（関節鏡、内視鏡、他）	関矢仁
6	月 日	軟部組織・骨・関節の感染症	軟部組織感染症、骨髄炎、感染性関節炎、その他の骨関節感染症	関矢仁
7	月 日	関節リウマチと類縁疾患	関節リウマチ、脊椎関節炎、リウマチ性多発筋痛、突発性関節炎、線維筋痛症、他	関矢仁
8	月 日	変形性関節症と類縁疾患	変形性関節症、結晶誘発性関節炎、神経病性関節症、代謝異常症による関節疾患、他	関矢仁
9	月 日	四肢循環障害と阻血壊死性疾患	四肢循環障害をきたす疾患、外傷後血管障害、骨壊死、他	関矢仁
10	月 日	先天性骨系統疾患と先天異常症候群	先天性骨系統疾患の概要、先天異常症候群の概要	関矢仁
11	月 日	代謝性骨疾患	骨粗鬆症、くる病、骨軟化症、腎性骨ジストロフィー、甲状腺機能異常、成長ホルモン異常、他	関矢仁
12	月 日	骨腫瘍	骨腫瘍の分類、原発性良性骨腫瘍、骨腫瘍類似疾患、原発性悪性骨腫瘍、続発性悪性骨腫瘍、他	関矢仁
13	月 日	軟部腫瘍	軟部腫瘍の分類、良性軟部腫瘍、悪性軟部腫瘍	関矢仁
14	月 日	神経・筋疾患	中枢神経疾患、末梢神経障害、筋疾患	関矢仁
15	月 日	ロコモティブシンドローム	ロコモティブシンドロームの背景・定義・概念、評価と対策	関矢仁

評 価	筆記試験（100%）
教科書	1. 標準整形外科学 第14版（医学書院） 2. 配布資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	月、火、木曜日（15時～16時）研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。
選択・必修	必修
実務経験	医師として医療機関に10年勤務

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
整形外科Ⅱ (各論)	演習	1 単位 (30 時間)	2 年後期	関矢仁

授 業 概 要

整形外科Ⅰ (総論) で学んだ知識を踏まえ、人体の各関節における代表的な疾患や外傷に関する病態や診断、治療方法についてより詳細に学ぶ。また、各関節疾患のリハビリテーションを行うにあたり、留意すべき事項について理解する。

到 達 目 標

1. 各関節における代表的な疾患の病態について説明することができる
2. 各関節疾患における検査および治療について説明することができる
3. 各関節疾患のリハビリテーションを行う際に留意すべき事項について理解する

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：講義時、関連するテキストの該当箇所を熟読して出席する  
 事後学修：教科書と配布プリントによる復習を行うこと

対応	(DP1)	○	(DP2)	(DP3)
DP	(DP4)		(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	肩関節	肩関節の機能解剖、診察・検査法、肩関節の疾患 (先天異常、不安定症、変性疾患、関節症、スポーツによる障害、他)	関矢仁
2	月 日	肘関節	肘関節の機能解剖、診察・検査法、肘関節の疾患 (小児に好発する疾患、成人以降に好発する疾患、先天異常、他)	関矢仁
3	月 日	手関節と手	手の機能解剖、診察・検査法、手の疾患 (外傷、拘縮と変形、炎症性疾患、骨壊死、神経麻痺、循環障害、CRPS、腫瘍、先天異常、他)	関矢仁
4	月 日	頸椎	脊柱の機能解剖、診察・検査法、頸椎疾患 (斜頸、先天異常、変性疾患、炎症性疾患、破壊性疾患)	関矢仁
5	月 日	胸郭・胸椎・腰椎	胸郭・胸椎・腰椎の機能解剖、診察・検査法、疾患 (先天異常、変形、変性疾患、分離症、すべり症、炎症性疾患、腫瘍、他)	関矢仁
6	月 日	股関節	股関節の機能解剖、診察・検査法、股関節の疾患 (小児・成人の疾患) と手術	関矢仁
7	月 日	膝関節	膝関節の機能解剖、診察・検査法、膝関節の疾患 (半月板損傷、靭帯損傷、膝外大腿関節障害、関節症、炎症性疾患、腫瘍、他)	関矢仁
8	月 日	足関節と足	足関節の機能解剖、診察・検査法、足関節の疾患 (足部変形、麻痺、過剰骨障害、絞扼性神経障害、骨端症、無腐生壊死、外傷後足障害、他)	関矢仁
9	月 日	外傷総論	外傷の概要、捻挫と脱臼、骨折	関矢仁
10	月 日	軟部組織損傷	皮膚・皮下組織損傷、筋・腱損傷、血管損傷、靭帯損傷、区画症候群、挫滅症候群	関矢仁
11	月 日	骨折・脱臼	肩関節・上腕骨骨幹部・肘関節・前腕部・手の骨折と脱臼	関矢仁
12	月 日	骨折・脱臼	胸郭・骨盤・股関節・大腿骨骨幹部・膝関節・下腿骨・足関節・足部の骨折と脱臼	関矢仁
13	月 日	脊椎・脊髄損傷	脊椎と脊髄の解剖、脊髄損傷、脊椎損傷	関矢仁
14	月 日	末梢神経損傷	末梢神経損傷の病態・原因・診断・治療、代表的な末梢神経損傷	関矢仁
15	月 日	スポーツと整形外科	代表的なスポーツ外傷とスポーツ障害	関矢仁

評 価	筆記試験 (100%)
教科書	3. 標準整形外科学 第 14 版 (医学書院) 4. 配布資料
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	月、火、木曜日 (15 時～16 時) 研究室 メール等で 2 日前までに事前に予約を取ることとする。
選択・必修	必修
実務経験	医師として医療機関に 10 年勤務

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
作業療法学概論	講義	2単位 (30時間)	1年前期	近藤敏

**授 業 概 要**

作業療法を学ぶ学生のための道標となる科目である。最初に作業療法のルーツとアーツアンドクラフツ運動、パラダイム理論に基づく米国作業療法の歴史、そして、わが国の作業療法の歴史について学修する。次に作業療法実践の事例、作業療法における「作業」の意義、「作業」と健康との関係、作業療法の対象と場所、作業療法のプロセス、作業療法モデル論、作業療法の進化について学修する。本授業科目は豊富な臨床経験をもつ作業療法士が担当する。

**到 達 目 標**

1. 作業療法の発展に尽くした国内外の先達を10人あげることができる
2. パラダイム理論で作業療法の歴史を説明できる
3. 作業療法における作業の意義について説明できる
4. 作業療法のプロセスを説明できる
5. 日本作業療法士協会のホームページにアクセスし、その活動について知ることができる
6. 作業療法を家族や友人に分かりやすく説明できる

**事 前 学 修 ・ 事 後 学 修**

事前学修：必ず教科書を読んで授業に臨んで下さい  
 事後学修：作成したノートや配布した資料及び確認テストを一元的にファイル化して下さい

対応	(DP1)	◎ (DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	作業療法の生い立ち 1	序、古代養生法としての作業	近藤敏
2	月 日	作業療法の生い立ち 2	作業療法の源流～18・19世紀の道徳療法、ピネルの功績、米国における隆盛と衰退	近藤敏
3	月 日	作業療法の生い立ち 3	作業の再発見～アーツアンドクラフツ運動、作業療法の創始者達	近藤敏
4	月 日	作業療法の生い立ち 4	米国における作業療法の成立～第一次世界大戦と「再建助手」、作業療法の認知と拡大	近藤敏
5	月 日	わが国における作業療法の発展 1	黎明期～精神科医と作業療法、結核の作業療法、肢体不自由児の療育	近藤敏
6	月 日	わが国における作業療法の発展 2	作業療法の再生と新生、新しい作業療法の始まり、「作業療法士」の誕生	近藤敏
7	月 日	わが国における作業療法の発展 3	国試受験の特例措置、作業療法の診療報酬化、新たな保健政策と作業療法	近藤敏
8	月 日	作業療法の現在 1	作業療法実践例～作業と健康との関係	近藤敏
9	月 日	作業療法の現在 2	作業療法実践例～作業と健康との関係	近藤敏
10	月 日	作業療法の現在 3	作業の意義、作業の範囲、作業療法士の役割、集団の利用	近藤敏
11	月 日	作業療法実践の枠組み 1	作業療法の前提概念～創始者の思想、ライリーの作業行動パラダイム	近藤敏
12	月 日	作業療法実践の枠組み 2	作業療法の対象者、行われる場所、作業療法実践のプロセス	近藤敏
13	月 日	作業療法実践の枠組み 3	作業療法評価と介入の技術、臨床思考過程（クリニカル・リーズニング）	近藤敏
14	月 日	作業療法モデル論	人間作業モデル、カナダ作業遂行モデル、AOTAの公式見解、作業科学の参入	近藤敏
15	月 日	作業療法の進化	作業療法の効果の検証、量的研究と質的研究、まとめ	近藤敏

評 価	筆記試験（毎回授業終了時に行う確認テスト）100%
教科書	鎌倉矩子・著：作業療法の世界、三輪書店、978-4-89590-205-2
参考図書等	日本作業療法士協会・監修：作業療法概論、協同医書、978-4-7639-2118-5 矢谷令子・監修：作業療法学概論、医学書院、978-4-260-02535-5
留意事項	
オフィスアワー等	月、火、木曜日（15時～16時）研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。
必修・選択	必修
実務経験	作業療法士として医療機関等に5年勤務

授 業 科 目 名	授 業 形 態	単 位 数 (時 間 数)	配 当 年 次	担 当 教 員
作業科学	講義	2 単位 (30 時間)	1 年後期	山根伸吾

授 業 概 要

作業療法の基盤となる「作業」について研究する学問として作業科学が登場した。「人は作業をすることで健康になれる」は作業療法の信念である。「作業」の魅力や「作業ができるようになること」の意義を理解するために必要な知識を学修する。学修者自らの作業の歴史を振り返り、作業が人間の発達や環境に与える影響について学修し、さらに「作業」についてより深く学修するために、作業の広がりや深さや主観的意味、作業による成長と回復、作業による社会的課題の解決について学修する。本授業科目は豊富な臨床経験をもつ作業療法士が担当する。

- 到 達 目 標
1. 作業の概念について説明できる
  2. 自身の作業の特性について説明できる
  3. doing、being、becoming、belonging について説明できる
  4. 作業的不公正について説明できる
  5. 作業を通して貢献できる社会的課題を挙げるができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：配布資料や、該当する教科書のページを30分程度熟読すること  
事後学修：講義内容を踏まえて、教科書を30分程度読みなおし、理解を深めること

対応	(DP1)	◎ (DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	作業科学とは	作業科学の概要について講義する	山根伸吾
2	月 日	作業科学の誕生(1):作業の力について	作業のもつ力について講義し、ディスカッションを行う	山根伸吾
3	月 日	作業科学の誕生(2):正式な学問としての作業科学、作業科学の学問的性質	学問としての作業科学について講義し、ディスカッションを行う	山根伸吾
4	月 日	作業科学の誕生(3):作業の定義	作業の定義について講義し、ディスカッションを行う	山根伸吾
5	月 日	作業の意味(1):引き起こされる感情、世界とのつながり、自分らしさ	作業の意味について講義し、ディスカッションを行う	山根伸吾
6	月 日	作業の意味(2):生活の構造化、健康との関連性	作業の意味について講義し、ディスカッションを行う	山根伸吾
7	月 日	作業の意味(3):社会的意味、作業の類型化	作業の意味について講義し、ディスカッションを行う	山根伸吾
8	月 日	自身と他者の作業について考える	事前学修をもとに、ディスカッションを行う	山根伸吾
9	月 日	作業科学の諸概念(1):作業の視点	作業の視点について講義し、ディスカッションを行う	山根伸吾
10	月 日	作業科学の諸概念(2):作業的存在	作業的存在について講義し、ディスカッションを行う	山根伸吾
11	月 日	作業科学の諸概念(3):作業的公正、作業科学に必要な視点	作業的公正について講義し、ディスカッションを行う	山根伸吾
12	月 日	作業科学と作業療法(1):作業療法を取り巻く状況の変化、作業療法の発展、作業療法における作業科学の応用	作業科学と作業療法の関連について講義し、ディスカッションを行う	山根伸吾
13	月 日	作業科学と作業療法(2):作業中心の実践の普及	作業科学と作業療法の関連について講義し、ディスカッションを行う	山根伸吾

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
14	月 日	作業科学の夢（健康と幸福の実現，理想社会の創造）	作業科学が貢献できることについて講義し、ディスカッションを行う	山根伸吾
15	月 日	「健やか高齢者研究 Well Elderly Study」を読む	事前学修で読んできた文献をもとに、ディスカッションを行う	山根伸吾

評 価	講義内小テスト（50%）、課題（50%）
教科書	吉川ひろみ 「作業」って何だろう 医歯薬出版 2017
参考図書等	佐藤剛・監訳 作業科学 三輪書店 1999
留意事項	
オフィスアワー等	月、火曜日（17時～18時）・金曜日（15時～16時）研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。
必修・選択	必修
実務経験	作業療法士として医療機関等に6年勤務

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
作業療法管理学	講義	2単位 (30時間)	3年後期	近藤敏

授業概要
作業療法士は医療行為のみならず、病院や施設の組織を理解し、作業療法部門の管理に努めることも要求される。本科目では、作業療法部門の組織、安全管理、機器のメンテナンス、在庫物品の管理、さらには記録、職員教育、職業倫理について学修する。また、組織内での様々なハラスメントやクライアントとの関係の取り方、自身の健康管理、医療職において生じる倫理的ジレンマについて事例を挙げながら学修する。

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 作業療法士がなぜ管理学を学ぶ必要があるか説明できる。</li> <li>2. 病院の組織について説明できる。</li> <li>3. 仕事に必要なヒト、モノ、カネについて説明できる。</li> <li>4. 作業療法実践における患者の安心と安全を守るための配慮について説明できる。</li> <li>5. 作業療法に関する診療報酬等について説明できる。</li> <li>6. 個人及び医療情報管理について説明できる。</li> <li>7. 倫理的ジレンマについて説明できる。</li> <li>8. 作業療法部門の設計や設備について説明できる。</li> </ol>

事前学修・事後学修								
事前学修：「理学療法士及び作業療法士法」を一読する。日本作業療法士協会の倫理綱領及び業務指針を揃えておく。 事後学修：配布資料をファイル化し復習する。								
<table border="1"> <tr> <td>対応</td> <td>(DP1)</td> <td>(DP2)</td> <td>(DP3)</td> </tr> <tr> <td>DP</td> <td>(DP4)</td> <td>◎(DP5)</td> <td>(DP6)</td> </tr> </table>	対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)	DP	(DP4)	◎(DP5)	(DP6)
対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)					
DP	(DP4)	◎(DP5)	(DP6)					

回数	日程	単元	内容	担当教員
1	月 日	序、病院とは	仕事とは、病院法、リハビリテーション診療科、作業療法士の働く場所、就業規則、サービス規程	近藤敏
2	月 日	作業療法室の管理	整理整頓（シンプル、クリーン、セフティ）、機器のメンテナンス、水・電気・ガス、排水設備、	近藤敏
3	月 日	患者のリスク管理	ヒヤリハット、疲労の兆候、転倒事故、災害時の対応（火災、地震、風水害時の避難訓練）	近藤敏
4	月 日	スタッフの健康管理 職員教育	労働基準法（社労士）、腰痛症、キャリアパス（人事評価）、研究・学会	近藤敏
5	月 日	リーダーシップ	リーダーシップの型（利点と欠点）、理想のリーダーシップ	近藤敏
6	月 日	職業倫理	ヒポクラテスの誓詞、日本作業療法士協会の倫理綱領、プロフェッショナルとは	近藤敏
7	月 日	法令遵守 1	人員配置、作業療法室の基準、リハビリテーション学科・作業療法部門の機能評価、	近藤敏
8	月 日	法令遵守 2	報告・記録、情報管理、広報、ケース検討会、研修	近藤敏
9	月 日	診療報酬・介護報酬	診療報酬制度、社会保険診療報酬点数表、作業療法関連診療報酬、介護保険	近藤敏
10	月 日	人間関係、ハラスメント	人間関係の築き方、ハラスメント対策、ハラスメント研修、人権委員会	近藤敏
11	月 日	倫理的ジレンマ 1	倫理的ジレンマ事例についてディベート	近藤敏
12	月 日	倫理的ジレンマ 2	倫理的ジレンマ事例についてディベート	近藤敏
13	月 日	作業療法部門を創設	訓練室（機器・テーブルの配置）、評価室、ADL室、トイレ、スタッフ室、倉庫	近藤敏
14	月 日	管理者・経営者として	ヒト・モノ・カネ、融資・助成金、ビジョン・経営哲学	近藤敏
15	月 日	まとめ	まとめ	近藤敏

評価	筆記試験（毎回授業終了時に行う確認テスト）90%、レポート課題 10%
教科書	資料を配付する。
参考図書等	大庭潤平・編著：作業療法管理学入門、医歯薬出版、ISBN978-4-263-26568-0
留意事項	
オフィスアワー等	月、金曜日（15時～16時）・火曜日（17時～18時）研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。
選択・必修	必修
実務経験	作業療法士として医療機関に5年勤務



授 業 科 目 名	授 業 形 態	単 位 数 (時 間 数)	配 当 年 次	担 当 教 員
作業療法評価学	講義	2 単位 (30 時間)	2 年前期	奈良進弘

授 業 概 要

対象者の心身機能・身体構造、活動・参加、環境・個人因子についての情報に基づき、作業療法は、実施される。情報収集からそれらの情報を処理し、作業療法を計画するまでのプロセスが評価である。作業療法評価学では、作業療法の重要なプロセスである評価についての専門的な知識と技術の修得を目的とする。観察、面接、計測、検査などの様々な情報収集手段によって、対象者の機能・構造、活動・参加、環境のそれぞれについて、適切な情報を得て、処理するために必要な知識と技術の修得を目指す。

到 達 目 標

1. 作業療法過程における評価について説明することができる
2. 心身機能についての情報を収集するための方法を列挙することができる
3. 身体構造についての情報を収集するための方法を列挙することができる
4. 活動・参加についての情報を収集するための方法を列挙することができる
5. 個人因子・環境因子についての情報を収集するための方法を列挙することができる
6. 作業療法評価のための情報収集において注意する点を列挙することができる
7. 収集された情報についての処理方法を具体的に述べるすることができる
8. 収集された情報の信頼性と妥当性を検証する方法を具体的に述べるすることができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：学習支援システムを利用して単元毎に提示される事前学修についての課題（リーディング課題と調査型課題）を行い、それらを基にして行われる単元での学修に備えること（所要時間 90 分）

事後学修：各単元の終了時に、その単元についての理解を確認する課題（まとめ課題）とその単元の理解を更に発展させる課題（発展課題）を提示する。まとめ課題の実施によって、各自の学修状況を自己評価し、必要に応じて補修を行うこと。十分な学修の基で、発展課題を行い、学修の定着と深化を測ること（所要時間 90 分）

対応	(DP1)	◎ (DP2)	(DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	作業療法評価について	検査や測定、観察、面接などの手段によって得られた情報をもとに行われる作業療法評価を概観し、作業療法過程での役割を理解する	奈良進弘
2	月 日	信頼性と妥当性	得られた情報の信頼性と妥当性、および精度について理解し、その検証方法を理解する	奈良進弘
3	月 日	面接と聞き取り	対象からのフォーマルおよびインフォーマルな情報収集の手段である面接と聞き取りの役割と方法を理解する	奈良進弘
4	月 日	個人因子と環境因子についての情報収集	対象の個人因子と環境因子について情報を収集するための方法を整理し、それらの適応方法を理解する	奈良進弘
5	月 日	心身機能についての情報収集	画像を含む医療情報や、対象の基本的な精神機能や運動機能について、作業療法実践に必要な情報の一連の収集過程について理解する	奈良進弘
6	月 日	生理機能の計測・測定	バイタルサインを中心とした生理機能の計測・測定の方法を整理し、それらの適応方法を理解する	奈良進弘
7	月 日	運動機能の観察	目視や映像記録等を用いた動作観察を通じて、対象の運動機能についての情報を収集するための方法を整理し、それらの適応方法を理解する	奈良進弘
8	月 日	運動機能の尺度評価	作業療法実践において利用されることが多い運動機能を尺度化した評定法を整理し、それらの適応方法を理解する	奈良進弘
9	月 日	認知機能の計測	設定条件と遂行成績との対比によって、その課題遂行に用いられた認知機能の計測方法を整理し、それらの適応方法を理解する	奈良進弘
10	月 日	認知機能の尺度評価	各種課題の遂行成績をもとにした認知機能の尺度評価方法を整理し、それらの適応方法を理解する	奈良進弘
11	月 日	日常生活の尺度評価	聞き取りや観察をもとにした日常生活遂行の情報によって、その活動や参加を評価する方法を整理し、それらの適応方法を理解する	奈良進弘
12	月 日	社会生活加の尺度評価	聞き取りや観察をもとにした社会生活遂行の情報によって、その活動や参加を評価する方法を整理し、それらの適応方法を理解する	奈良進弘
13	月 日	知的能力検査・発達検査による評価	知的能力検査、発達スクリーニング検査や発達分析検査を整理し、それらの適応方法を理解する	奈良進弘

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
14	月 日	数値データの処理と解釈	計測・測定によって得られたデータや尺度化された指標によって得られたデータの処理方法を整理し、適切な解釈を行うための知識と技術を学ぶ	奈良進弘
15	月 日	記述データの処理と解釈	観察や面接などによって得られた記述データの分析技法を整理し、適切な解釈を行うための知識と技術を学ぶ	奈良進弘

評 価	総合的に判断する（筆記試験 60%、事前課題 15%、まとめ課題 15%、発展課題 10%）
教科書	能登 真一，山口 昇，玉垣 努，新宮 尚人編 作業療法評価学 第3版（標準作業療法学 専門分野） 医学書院 2017
参考図書等	
留意事項	
オフィスアワー等	月曜日（17時～18時）・火、木曜日（13時～14時）研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。
必修・選択	必修
実務経験	作業療法士として医療機関等に2年勤務

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
作業療法臨床推論	講義	2単位 (30時間)	2年後期	奈良進弘

授 業 概 要

人々に対して専門性見地から助言や支援を行う専門職の「専門知」の構築過程を明らかにし、それぞれの専門職がその過程について行っている省察を探究した文化人類学の研究を医療専門職に拡大したものが、臨床推論である。作業療法の臨床推論は、80年代から始まり、作業療法士の専門知についての「メタ認知」の解明は、様々な作業療法の実践や教育分野で実施され、実践方法の改善や考え方の整理、熟練者の考え方を初心者に伝える教育方法への知見などがもたらされている。作業療法臨床推論では、様々な観点から情報を捉え、実践を導くプロセスとそのプロセスそのものの「メタ認知」について、探究し、作業療法とその発展の基盤となる知識を学修する。

到 達 目 標

1. 作業療法実践における臨床推論の役割を説明できる
2. 作業療法における科学的推論、手続き的推論、プラグマティック推論、相互的推論、ナラティブ推論、および条件的推論について説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：単元毎に提示される事前学修についての課題（リーディング課題と調査型課題）を行い、それらを基にして行われる単元での学修に備えること（所要時間 90 分）

事後学修：各単元の終了時に、その単元についての理解を確認する課題（まとめ課題）とその単元の理解を更に発展させる課題（発展課題）を提示する。まとめ課題の実施によって、各自の学修状況を自己評価し、必要に応じて補習を行うこと。十分な学修の基で、発展課題を行い、学修の定着と深化を図ること（所要時間 90 分）

対応	(DP1)	◎ (DP2)	◎ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	臨床推論：セラピストは何を考えているか	臨床推論について、その基本的概念を理解するために、代表的な実践場面での推論を具体的に紹介する	奈良進弘
2	月 日	作業療法臨床推論	作業療法実践についての臨床推論が、どのように探究され、構造化されてきたか、これまでの経過を整理する	奈良進弘
2	月 日	生態学的モデルによる作業療法臨床推論	対象、作業療法士、及び実践文脈という観点から作業療法臨床推論を考える生態学的モデルについて学ぶ	奈良進弘
4	月 日	作業療法臨床推論の様相	多様な作業療法実践を反映した作業療法臨床推論を多層的に概観し、それぞれの様相の紹介と相互関係性について整理する	奈良進弘
5	月 日	科学的臨床推論	仮説検定、パターン認識、理論に基づく意思決定、統計学的証拠などの論理的および科学的手法を使用する科学的臨床推論について学び、セラピストの認識がどのように判断や決定に結びつくかを検討する	奈良進弘
5	月 日	手続き的臨床推論	検査・評価方法や介入手段などの選択根拠などについての推論を行う手続き的臨床推論について学び、セラピストの認識がどのように判断や決定に結びつくかを検討する	奈良進弘
7	月 日	プラグマティック臨床推論	サービスを提供するための支援制度や支援者の役割などの情報を基に援助するための推論を行うプラグマティック臨床推論について学び、セラピストの認識がどのように判断や決定に結びつくかを検討する	奈良進弘
8	月 日	相互的臨床推論	対象者やその周囲の人たち、そしてセラピストの相互関係性についての情報をもとに推論を行う相互的臨床推論について学び、セラピストの認識がどのように判断や決定に結びつくかを検討する	奈良進弘
9	月 日	ナラティブ臨床推論	対象者やその周囲の人たちのナラティブの分析をもとに推論を行うナラティブ臨床推論について学び、セラピストの認識がどのように判断や決定に結びつくかを検討する	奈良進弘
10	月 日	倫理的臨床推論	各職能団体による倫理綱領などの倫理原則に基づき推論を行う倫理的臨床推論について学び、セラピストの認識がどのように判断や決定に結びつくかを検討する	奈良進弘
11	月 日	医療場面での実践における作業療法臨床推論	様々な医療場面における作業療法実践において、熟練程度の異なるセラピストの実践判断を具体的な実践文脈の中で比較し、医療場面での臨床推論について検討する	奈良進弘
12	月 日	在宅支援における作業療法臨床推論	様々な在宅支援における作業療法実践において、熟練程度の異なるセラピストの実践判断を具体的な実践文脈の中で比較し、在宅支援での臨床推論について検討する	奈良進弘
13	月 日	作業療法教育と臨床推論	臨床推論の学修過程をサポートする教育理念と作業療法実践教育との関係性の整理し、作業療法臨床推論の学修と深化について検討する	奈良進弘
14	月 日	作業療法実践マネジメントと臨床推論	様々な場面での作業療法実践マネジメントの比較を通じて、作業療法臨床推論のあり方について検討する	奈良進弘

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
15	月 日	作業療法臨床推論と作業 療法学の発展	これまでの学修を基に、改めて作業療法臨床推論の全体像を俯瞰し、作業療法実践の 展開と発展の視点から作業療法臨床推論について検討する	奈良進弘

評 価	総合的に判断する（筆記試験 60%、事前課題 15%、まとめ課題 15%、発展課題 10%）
教科書	参考図書として提示した書籍の解説資料を開講前に配布する
参考図書等	Barbara A. Boyt Schell & John W. Schell. Clinical and Professional Reasoning in Occupational Therapy (2nd Ed). Walters Kluwer, Philadelphia, 2018
留意事項	
オフィスアワー等	月曜日（15時～16時）・火、木曜日（11時～12時）研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。
必修・選択	必修
実務経験	作業療法士として医療機関等に2年勤務

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
生活行為向上マネジメント	講義	1 単位 (15 時間)	2 年後期	谷川良博

授 業 概 要
生活行為向上マネジメントは作業療法士が対象とする方々の生活行為を中心に、アセスメントの手法やマネジメントを駆使して生活を支援する方法の一つである。特に、生活行為向上マネジメントは、①活動から参加までを包括的にとらえる視点、②過去から現在、将来まで連続している包括的視点、③作業の広がりを含む包括的視点が含まれている。講義と演習を経験して、これらの包括的視点を養うことを目標とする。

到 達 目 標
1. 生活行為と生活行為の障害について説明できる 2. 生活行為向上マネジメントのプロセスについて説明できる 3. 生活行為向上マネジメントの各シートの使用法と目的を説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修
事前学修：次回範囲のテキスト読書 事後学修：配布資料および各シートの理解

対応	(DP1)	◎ (DP2)	◎ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	生活行為向上マネジメントの背景	生活行為向上マネジメントを活用するために、背景、理論的位置づけ、用語の理解について学ぶ。	谷川良博
2	月 日	生活行為向上マネジメントの考え方1	生活行為の分類と内容について理解し、その連続性について学ぶ。	谷川良博
3	月 日	生活行為向上マネジメントの考え方2	生活行為の障害について、国際生活機能分類 (ICF) を中心に整理し、作業療法との関連について学ぶ。	谷川良博
4	月 日	生活行為向上マネジメントのプロセス	生活行為向上マネジメントのプロセスでは、インテーク、アセスメント、プランニングに移行する。これらの過程におけるマネジメントの重要性について学ぶ。	谷川良博
5	月 日	評価指標	生活行為向上マネジメントで用いられる評価指標について、各評価の活用方法、内容について学ぶ。	谷川良博
6	月 日	模擬事例を用いた演習1	提示された事例をもとに、生活行為向上マネジメントの各種シートを用いて演習を進める。生活行為聞き取りシートか、興味関心チェックシート等を使用する。	谷川良博
7	月 日	模擬事例を用いた演習2	提示された事例をもとに、生活行為向上マネジメントの各種シートを用いて演習を進める。生活行為アセスメント演習シート、生活行為課題分析シート等を使用する。	谷川良博
8	月 日	模擬事例を用いた演習3	提示された事例をもとに、生活行為向上プラン演習シートを用いてグループ発表する。	谷川良博

評 価	講義内発表 (40%)、筆記試験 (60%)
教科書	日本作業療法士協会 編：作業療法マニュアル 66 生活行為向上マネジメント 改訂第3版, 2018
参考図書等	日本作業療法士協会 監：作業の捉え方と評価・支援技術, 医歯薬出版, 2012
留意事項	
オフィスアワー等	月、火曜日 (15 時～16 時)・金曜日 (11 時～12 時) 研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。
必修・選択	必修
実務経験	作業療法士として医療機関等に22年勤務

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
日常生活支援学	講義	1単位 (15時間)	2年前期	山根伸吾

授 業 概 要

日本人の生活様式・伝統的な価値観を踏まえながら、起居・移動、コミュニケーション、セルフケア等について、それがもつ意味や動作分析を行う。日常生活活動 ADL、手段的 ADL、また生活・人生の質 QOL の評価法についても学修する。さらに疾患・障害、特に脳卒中、頸髄損傷、関節リウマチのクライアントに対する ADL・手段的 ADL のポイントについて学修する。

到 達 目 標

1. BADL、IADL、QOL の概念について説明できる
2. 代表的な ADL 評価を挙げ、そこに含まれる項目について説明できる
3. ADL に含まれる諸活動の分析を通して、その特性と機能を説明できる
4. 作業療法士が ADL に関わる意義を説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：該当する教科書を熟読すること(30分)  
 事後学修：講義内容を踏まえて、教科書を読みなおし、理解を深めること(30分)

対応	(DP1)	◎ (DP2)	◎ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	ADL の基礎、ADL 評価	ADL の基礎的な概念、ADL の代表的な評価について講義する	山根伸吾
2	月 日	食事、整容	食事、整容がどういった特性、機能を持つ活動であるか講義する。	山根伸吾
3	月 日	更衣	更衣がどういった特性、機能を持つ活動であるか講義する。	山根伸吾
4	月 日	排泄	排泄がどういった特性、機能を持つ活動であるか講義する。	山根伸吾
5	月 日	入浴	入浴がどういった特性、機能を持つ活動であるか講義する。	山根伸吾
6	月 日	起居・移動	起居、移動がどういった特性、機能を持つ活動であるか講義する。	山根伸吾
7	月 日	睡眠、栄養、運動、コミュニケーション	睡眠、栄養、運動、コミュニケーションがどういった特性、機能を持つ活動であるか講義する。	山根伸吾
8	月 日	IADL、QOL の概念と評価	IADL ならびに QOL の概念と評価について講義する	山根伸吾

評 価	筆記試験 (100%)
教科書	濱口編：標準作業療法学 専門分野 日常生活活動・社会生活行為学 医学書院, 2014
参考図書等	伊藤利之ら編 新版 日常生活活動 (ADL) 第 2 版 評価と支援の実際, 医歯薬出版 2020
留意事項	
オフィスアワー等	月、火曜日 (13 時～14 時)・金曜日 (11 時～12 時) 研究室 メール等で 2 日前までに事前に予約を取ることとする。
必修・選択	必修
実務経験	作業療法士として医療機関等に 6 年勤務

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
機能代償学	講義 演習	1単位 (30時間)	3年前期	奈良進弘

**授 業 概 要**

機能代償学では、対象者の機能・構造が原因となって生じた活動・参加の制約を種々の機器や環境調整などによって軽減するための専門的知識と技術を修得する。心身機能の代償の視点から活動・参加を支援する方法として、義肢、装具、テクニカルエイド（自助具、環境制御機器、移動援助機器、コミュニケーション援助機器等）、環境因子の視点から支援する方法として、住宅環境調整、社会環境調整などがあり、これらを作業療法過程の中で、対象者のニーズに応じて適切に適用するための方法を学ぶ。

- 到 達 目 標**
1. 作業療法における機能代償の役割を説明することができる
  2. 切断者（先天性四肢欠損を含む）のリハビリテーションでの作業療法の役割を説明し、義肢の種類と適応について説明することができる
  3. 身体機能の代償手段としての装具の役割を説明し、装具の種類と適応について説明することができる
  4. テクニカルエイド（自助具、環境制御機器、移動援助機器、コミュニケーション援助機器等）の種類と適応について説明することができる
  5. 心身機能の代償方法としての住宅環境調整、社会環境調整を説明できる
  6. 義肢、装具、テクニカルエイド等についての公的支援制度について説明できる

**事 前 学 修 ・ 事 後 学 修**

事前学修：学習支援システムを利用して単元毎に提示される事前学修についての課題（リーディング課題と調査型課題）を行い、それらを基にして行われる単元での学修に備えること（所要時間 90 分）

事後学修：各単元の終了時に、その単元についての理解を確認する課題（まとめ課題）とその単元の理解を更に発展させる課題（発展課題）を提示する。まとめ課題の実施によって、各自の学修状況を自己評価し、必要に応じて補習を行うこと。十分な学修の基で、発展課題を行い、学修の定着と深化を図ること（所要時間 90 分）

対応	(DP1)	◎ (DP2)	◎ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	機能代償と作業療法	作業療法実践において機能代償学とその応用技術の果たす役割を整理する	奈良進弘
2	月 日	義肢装具学	義肢や装具についての歴史と様々な技術を取り入れた発展について概観するとともに、日本における義肢装具の給付制度を理解する	奈良進弘
3	月 日	切断とリハビリテーション	切断者（先天性四肢欠損を含む）のリハビリテーションについて、概観し、作業療法の果たす役割を理解する	奈良進弘
4	月 日	義足	義足の種類と構成要素と部品について整理し、それらの適用について理解する	奈良進弘
5	月 日	義手	義手の種類と構成要素と部品について整理し、それらの適用について理解する	奈良進弘
6	月 日	上肢切断者に対する作業療法	義手装着訓練と義手のチェックアウトを含む上肢切断者に対する作業療法過程を理解する	奈良進弘
7	月 日	装具学	装具の種類と適応を理解する	奈良進弘
8	月 日	体幹装具と下肢装具	体幹装具と下肢装具の種類と適応を理解する	奈良進弘
9	月 日	上肢装具とスプリント	上肢装具とスプリントの種類と適応を理解し、スプリントの作成手順を理解する	奈良進弘
10	月 日	移動援助機器	杖や車椅子などの移動援助機器の種類と適応を理解する	奈良進弘
11	月 日	環境制御機器とコミュニケーション支援機器	環境制御機器とコミュニケーション支援機器の種類と適応を理解する	奈良進弘
12	月 日	テクニカルエイドの活用と作業療法	重度障害を持つ対象者に対するテクニカルエイドの活用した作業療法支援について理解する	奈良進弘
13	月 日	自助具の種類	自助具の種類と適応を理解する	奈良進弘
14	月 日	自助具のデザイン	利用者のニーズに合致した自助具をデザインする手順を理解する	奈良進弘
15	月 日	環境調整	自宅からコミュニティに拡大する生活環境の調整のための方法を理解する	奈良進弘

**評 価** 総合的に判断する（筆記試験 60%、事前課題 15%、まとめ課題 15%、発展課題 10%）

教科書	伊藤 利之 赤居 正美（編） 義肢装具のチェックポイント（第8版） 医学書院 2014
参考図書等	
留意事項	授業については講義と演習を組み合わせる効果的に実施する。
オフィスアワー等	月曜日（17時～18時）・火、木曜日（13時～14時）研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることをとする。
必修・選択	必修
実務経験	作業療法士として医療機関等に2年勤務



授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
身体機能作業療法学	講義 演習	1単位 (30時間)	3年前期	近藤昭彦

授 業 概 要

作業学や作業療法評価学で学んだ知識・技術をもとに作業療法の特性を生かした実践を学ぶために、身体機能障害の治療原理と作業療法実施の枠組みを学ぶ。関節可動域制限、筋力低下、協調性障害などの改善を目的とした手段的作業療法の実際を修得する。また、作業療法の対象とする脳血管障害、脊髄損傷、パーキンソン病等の中枢神経障害、末梢神経障害、骨折、関節リウマチ等の運動器障害、さらに糖尿病等の内部障害などの基本的アプローチについて学修する。

到 達 目 標

1. 作業療法の対象となる身体障害領域の範囲について説明できる
2. 身体障害を持つ方に対して作業療法の役割と治療方法について説明できる
3. 各障害と治療的作業の関連性について説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：教科書と関連する該当箇所を予習し授業に臨むこと  
事後学修：教科書と配布プリントによる復習を行うこと

対応	(DP1)	◎ (DP2)	◎ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	身体機能障害作業療法学の基礎	身体機能障害作業療法の目的,臨床推論,身体機能作業療法のプロセスなど	近藤昭彦
2	月 日	身体機能障害の治療原理①； ボディメカニクス	物理学的基礎知識・身体運動の基礎知識・動作介助の具体例	近藤昭彦
3	月 日	身体機能障害の治療原理②； 運動制御と運動学修	運動制御理論,運動学修について	近藤昭彦
4	月 日	身体機能障害の治療原理③； 関節可動域の維持・拡大	関節可動域制限の原因と機序,評価・治療手技と作業療法との関連	近藤昭彦
5	月 日	身体機能障害の治療原理④； 筋力と筋持久力の維持・増強	筋力・筋持久力低下の要因と原理,評価治療手技と作業療法との関連	近藤昭彦
6	月 日	身体機能障害の治療原理⑤； 筋緊張異常とその治療	筋緊張異常を起こす疾患と発生機序,評価および治療手技と作業療法との関連	近藤昭彦
7	月 日	身体機能障害の治療原理⑥； 不随意運動とその治療	不随意運動を起こす疾患と発生機序,評価および治療手技と作業療法との関連	近藤昭彦
8	月 日	身体機能障害の治療原理⑦； 協調運動障害とその治療	協調運動障害を起こす疾患と発生機序,評価および治療手技と作業療法との関連	近藤昭彦
9	月 日	身体機能障害の治療原理⑧； 知覚再教育	知覚再教育のための,評価および治療手技と作業療法との関連	近藤昭彦
10	月 日	身体機能障害の治療原理⑨； 廃用症候群とその対応	廃用症候群を起こす原因とその影響,評価および対応と作業療法との関連	近藤昭彦
11	月 日	身体機能障害の治療原理⑩； リスク管理と物理療法	リスク管理（インシデント・アクシデントレポート,医療安全管理など）と物理療法の基礎	近藤昭彦
12	月 日	身体機能作業療法実践の枠組 み①	処方箋・依頼箋,リハビリテーション実施計画書とインフォームドコンセントなど	近藤昭彦
13	月 日	身体機能作業療法実践の枠組 み②	病期及び作業療法に関わる時期・病期に応じた治療・指導・援助内容と実施場所	近藤昭彦
14	月 日	身体機能作業療法実践の枠組 み③	実施場所に応じた,治療・指導・援助	近藤昭彦
15	月 日	身体機能作業療法実践の枠組 み④	ライフサイクルに応じた治療・指導・援助の違いについて	近藤昭彦

評 価	筆記試験（70%）・小テスト（20%）・授業態度など（10%）を総合して評価する
教科書	標準作業療法学 身体機能作業療法学 第3版 医学書院
参考図書等	作業療法学ゴールドマスターテキスト身体障害作業療法学改訂第2版 Medical View
留意事項	授業については講義と演習を組み合わせる効果的に実施する。
オフィスアワー等	月、火曜日（11時～12時）・木曜日（15時～16時）研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。
必修・選択	必修
実務経験	作業療法士として医療機関等に5年勤務

授業科目名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担当教員
高齢期作業療法学	講義	1単位 (15時間)	3年前期	谷川良博

授 業 概 要

作業学や作業療法評価学で学んだ知識・技術をもとに作業療法の特性を生かした高齢期のクライアントに対する介入法を学修する。高齢期の心身機能の低下に伴うロコモティブ症候群、廃用症候群、転倒事故といったリスクを踏まえながら、高齢者に対し、個人の長年の経験や教育歴、誇りを尊重する態度を身につける。作業療法の理論をベースに評価法の選択、検査をもとに作業療法計画と介入について学修する。

到 達 目 標

1. 高齢期における対象者の身体面・心理面の変化について説明することができる。
2. 高齢期に多くみられる疾患を挙げ、その支援方法について説明することができる。
3. 高齢期における介護者への支援の必要性とその支援について説明することができる。

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：講義中に行う発表やディスカッションに向けて事前準備を行う  
 事後学修：講義中に配布する資料等を熟読し、授業内容の復習を行う

対応	(DP1)	◎ (DP2)	◎ (DP3)
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	高齢期作業療法の枠組みと対象	高齢者が主体性を保ち、社会参加し、自己実現を追求し、尊厳のある生き方をすることを作業の側面から支えるために作業療法が貢献できる事柄を学ぶ	谷川良博
2	月 日	高齢期作業療法の制度的位置づけと実施形態	地域包括ケアシステムの概要や介護保険の目的や仕組みについて理解する さらに、介護保険下で作業療法士が配置されるサービスの概要を学ぶ	谷川良博
3	月 日	高齢期とはどのような時期か1	老化について、身体機能面や精神機能面の変化について理解する これら心身機能面が老年期うつ病などの疾患に影響を及ぼすことを学ぶ	谷川良博
4	月 日	高齢期とはどのような時期か2	老化によって日常生活上で事故防止が必要な事柄を学ぶ さらに、事故を防止しながらADLやIADLの維持が必要なことを学ぶ	谷川良博
5	月 日	実践現場で多い疾患 廃用症候群	身体の不活発な状態に生じる二次的な障害であることから、不活発になる要因やその対策について学ぶ	谷川良博
6	月 日	実践現場で多い疾患 認知症	認知症について医学的側面、生活上の側面から理解し、支援方法について理解する	谷川良博
7	月 日	高齢期で用いられる評価1	評価の目的や活用方法を学ぶ 検査に際しての基本的な留意点を学ぶ。	谷川良博
8	月 日	高齢期で用いられる評価2	対象となる事象に関する評価の種類とその内容について学ぶ 各評価における細項目の目的について学ぶ	谷川良博
9	月 日	高齢期における家族支援	高齢者介護の現状について学び、家族支援の意義を理解する	谷川良博
10	月 日	実践場面でのアセスメントとマネジメント	高齢期では入院、在宅のどの場面でも、多職種連携は密となる必要がある 評価結果を集約してアセスメントし、個別のマネジメントを発揮する必要性を理解する	谷川良博
11	月 日	介入の実際1	早期離床を促し、ADLの維持や向上を図り、廃用症候群を防止する介入例について紹介し、その過程について討議を行うことで理解を深める	谷川良博
12	月 日	介入の実際2	ADLの向上からIADLへの移行に関する事例を紹介し、その過程と留意点について討議を行うことで理解を深める	谷川良博
13	月 日	リスク管理	高齢者は老化の進行とともに生理機能も低下しており、リスク管理には連携が必要になる リスク管理に関する観察のポイントや潜在的なリスクについて学ぶ	谷川良博
14	月 日	高齢者の人権と権利擁護	高齢者の人権に関する歴史を学び、身体拘束の禁止や高齢者虐待防止法、そして権利擁護について理解する	谷川良博
15	月 日	終末期における支援	高齢者は複数の疾患や障害を併せ持ち、社会的にも影響を受けやすいため、その終末期はきわめて多様であることから、作業療法士の立場としての支援を理解する	谷川良博

評 価	筆記試験 60%、レポートや授業での課題 40%
教科書	浅海奈津美・守口恭子 老年期の作業療法 三輪書店 2018
参考図書等	守口恭子 高齢期における認知症のある人の生活と作業療法 三輪書店 2017
留意事項	
オフィスアワー等	月、火、金曜日（13時～14時）研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。

必修・選択	必修
実務経験	作業療法士として医療機関等に 22 年勤務

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
高次脳機能作業療法学	講義	1 単位 (15 時間)	2 年後期	山根伸吾

授 業 概 要

基礎作業療法学や作業療法評価学で学んだ知識・技術をもとに作業療法の特性を生かした介入法を学修する。脳機能障害では、人が生活行為を遂行していく上で、その行為を困難にする高次脳機能障害が出現することが多く、その機序や具体的な対応方法を学んでおく必要がある。この授業では、失語、失行、失認の特性や作業療法の介入方法の具体例を学修する。

到 達 目 標

1. 高次脳機能障害の各症状の概要を説明できる
2. 高次脳機能障害の特性と生活上の障害の関連性を説明できる
3. 高次脳機能障害を有する方への作業療法介入について説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：該当する教科書のページを30分程度熟読すること  
 事後学修：講義内容を踏まえて教科書を参照しながら、30分程度復習すること

対応	(DP1)	◎ (DP2)	◎ (DP3)○
DP	(DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	高次脳機能障害の概要（意識・見当識・知能）、高次脳機能障害の方への作業療法評価・介入について	高次脳機能障害の概要と、高次脳機能障害の方への作業療法プロセスについて説明する	山根伸吾
2	月 日	注意障害、失認	左記の障害の概要を説明し、特性の応じた作業療法介入について説明する	山根伸吾
3	月 日	記憶障害	左記の障害の概要を説明し、特性に応じた作業療法介入について説明する	山根伸吾
4	月 日	半側空間無視	左記の障害の概要を説明し、特性の応じた作業療法介入について説明する	山根伸吾
5	月 日	コミュニケーションの高次脳機能障害	左記の障害の概要を説明し、特性の応じた作業療法介入について説明する	山根伸吾
6	月 日	運動/動作の障害（失行）	左記の障害の概要を説明し、特性の応じた作業療法介入について説明する	山根伸吾
7	月 日	空間性認知と操作、身体意識の障害	左記の障害の概要を説明し、特性の応じた作業療法介入について説明する	山根伸吾
8	月 日	遂行機能障害、社会的行動障害	左記の障害の概要を説明し、特性の応じた作業療法介入について説明する	山根伸吾

評 価	筆記テスト 100%
教科書	能登真一編 標準作業療法学専門分野高次脳機能障害作業療法学 医学書院 2019
参考図書等	鎌倉矩子 高次脳機能障害の作業療法 美輪書店 2010 鈴木孝治 他 高次脳機能障害マエストロシリーズ 医歯薬出版 2006
留意事項	
オフィスアワー等	月、火曜日（17時～18時）・金曜日（15時～16時）研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることをとする。
必修・選択	必修
実務経験	作業療法士として医療機関等に6年勤務

授 業 科 目 名	授 業 形 態	単 位 数 (時 間 数)	配 当 年 次	担 当 教 員
認知症作業療法	講義	1 単位 (15 時間)	3 年前期	谷川良博

授 業 概 要

今日、認知症およびその予備軍を合わせると 800 万人を超すと言われ、この対策と予防は我が国の国民的課題である。認知症高齢者の心理特性を理解しながら、その人らしい作業を取り戻すことで行動心理症状を防ぎ、自分らしく生活するために作業療法が果たす役割は大きい。この授業では、認知症になっても安心・安全に暮らせる地域づくりや認知症予防に対する作業療法の技術を学修する。また、これまでに行われている認知症に対する代替療法についても学修する。

- 到 達 目 標
1. 認知症者の生活障害について具体例を挙げることができる
  2. 認知症の支援について、作業療法実践と社会資源の活用について具体例を挙げて説明ができる
  3. 認知症予防や地域在住認知症者に対する地域支援について具体例を挙げて説明ができる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：各授業のテーマに該当するテキストに目を通しておくこと。  
事後学修：テキスト、講義資料、参考資料などを用いて、学修した内容を整理し、理解を深める。

対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)
DP	◎ (DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	高齢社会と認知症	高齢社会にともない認知症高齢者が増加しているなか、平均寿命と健康寿命との関係、発症率に関する知識、介護保険での作業療法士の役割について理解を深める	谷川良博
2	月 日	認知症の定義と分類	認知症の診断基準をもとに、その症状について理解を深める。さらに、認知症の代表的なタイプについて症状と特徴について理解を深める	谷川良博
3	月 日	認知症に関連する評価	認知症の作業療法実践では、認知症者を正確に把握する必要がある。そのためには、評価を進める際の基本的姿勢、実際のテスト法について理解する	谷川良博
4	月 日	認知症に関連する社会資源	資源として、制度（関連法規）、家族会、福祉用具などがある。支援する際に留意するポイントや活用方法について理解する	谷川良博
5	月 日 1	認知症の作業療法の実際	提示された事例を読み込み、アセスメントによって生活課題の整理と支援計画を立案する	谷川良博
6	月 日 2	認知症の作業療法の実際	アセスメント結果と支援計画をもとにマネジメントの実際について討議する	谷川良博
7	月 日	認知症者とのコミュニケーション	認知症者とのコミュニケーションのために、表情やアイコンタクトなどから読み取る、聴く際の態度、共感の方法など具体的に理解する	谷川良博
8	月 日	認知症予防に対する地域づくりと作業療法	地域で認知症予防教室を展開する、地域で軽度認知症者への作業療法の展開などの実践をもとに、地域づくりと作業療法について理解する	谷川良博

評 価	筆記試験 80% 課題（レポート、発表） 20%
教科書	小川敬之編 認知症の作業療法 医歯薬出版 2019
参考図書等	守口恭子 認知症のある人の生活と作業療法 三輪書店 2017
留意事項	
オフィスアワー等	月、火、金曜日（13時～14時）研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。
必修・選択	必修
実務経験	作業療法士として医療機関等に 22 年勤務

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
ヘルスプロモーション作業療法学	講義	1 単位 (15 時間)	3 年前期	近藤敏

授 業 概 要

今日、作業療法は広がりを見せている。ヘルスプロモーション(健康づくり)においては、作業療法士はその力量を発揮できる。行政に勤務する作業療法士も増えており、一次予防や二次予防において住民参加の健康推進や医療・介護費用の抑制への貢献が期待されている。この授業では、介護予防・ヘルスプロモーションのプログラムについてグループによる課題発表も行う。本授業科目は豊富な臨床経験をもつ作業療法士が担当する。

到 達 目 標

1. 地域のヘルスプロモーション事業の計画立案ができる
2. 作業療法によるヘルスプロモーション「健やか高齢者研究」について説明できる
3. 身内の祖父母に地元の認知症予防教室等を紹介し勧めてみる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：自分の市町のホームページにアクセスし、ヘルスプロモーション事業の取り組みについて調べる  
 事後学修：行政職の作業療法士の論文・実践報告を1つ探して読む

対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)
DP	◎ (DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	ヘルスプロモーションと 作業療法 1	公衆衛生とヘルスプロモーション、オタワ憲章、ポピュレーションアプローチ、 カナダ作業療法士協会の意見表明「ヘルスプロモーションと作業療法」	近藤敏
2	月 日	ヘルスプロモーションと 作業療法 2	南カリフォルニア大学の作業療法プログラム(ライフスタイル再構築)と「健やか 高齢者研究」、日本における認知症予防教室等の実践例	近藤敏
3	月 日	ヘルスプロモーション事業 の計画(グループ課題) 1	健康教室の企画立案～教室名, 対象, 法的根拠, プログラム(内容、期間、頻度), 成果指標, スタッフ、ボランティア、費用、広報・ポスターの作成、保険	近藤敏
4	月 日	ヘルスプロモーション事業 の計画(グループ課題) 2	4～5名のグループで「〇〇健康教室(〇〇予防講座)」の計画立案	近藤敏
5	月 日	ヘルスプロモーション事業 の計画(グループ課題) 3	4～5名のグループで「〇〇健康教室(〇〇予防講座)」の計画立案	近藤敏
6	月 日	ヘルスプロモーション事業 の計画(グループ課題) 4	4～5名のグループで「〇〇健康教室(〇〇予防講座)」の計画発表の準備	近藤敏
7	月 日	ヘルスプロモーション事業 の発表(グループ課題) 1	グループ発表と質疑応答、コメント	近藤敏
8	月 日	ヘルスプロモーション事業 の発表(グループ課題) 2	グループ発表と質疑応答、コメント	近藤敏

評 価	発表 100%
教科書	資料を配布する。
参考図書等	日本作業療法士協会学術部編集：ヘルスプロモーション, (社) 日本作業療法士協会
留意事項	グループ課題でありやむを得ない事情等の欠席を除きメンバーに迷惑をかけること
オフィスアワー等	月、火、木曜日(15時～16時) 研究室 メール等で2日前までに事前に予約を取ることとする。
必修・選択	必修
実務経験	作業療法士として医療機関等に5年勤務

授 業 科 目 名	授業形態	単位数 (時間数)	配当年次	担 当 教 員
職業リハビリテーション	講義	1単位 (15時間)	2年後期	中山広宣

授 業 概 要

障害者の就労支援は作業療法士の重要な役割である。人生に働くことがどのような価値をもつのかという視点で、障害者の職業リハビリテーションを考える。身体障害者や精神障害者に関する、就労支援関連法規、就労移行支援事業所、障害者職業支援センター、地域包括支援センター、リワークプログラムなど、近年の障害者施策と福祉を理解して就労支援、地域支援のあり方を学ぶ。

到 達 目 標

1. 職業リハビリテーションの概略を説明できる
2. 職業リハビリテーションの法規と施設を述べるができる
3. 身体障害者、精神障害者の職業リハビリテーションを説明できる

事 前 学 修 ・ 事 後 学 修

事前学修：事前学修：教科書、配付資料等で予習し、事前に疑問点を整理しておくこと

事後学修：理解困難な所は必ず教員に質問し解決する。レポートは迅速に対応する

対応	(DP1)	(DP2)	(DP3)
DP	◎ (DP4)	(DP5)	(DP6)

回数	日程	単 元	内 容	担当教員
1	月 日	職業リハビリテーション 総論	職業リハビリテーションの概念	中山広宣
2	月 日	職業リハビリテーション 各論 1	職業リハビリテーションに関する法規	中山広宣
3	月 日	職業リハビリテーション 各論 2	職業リハビリテーションの施設	中山広宣
4	月 日	職業リハビリテーション 各論 3	職業リハビリテーションの施設と支援	中山広宣
5	月 日	職業リハビリテーション 各論 4	身体障害者の職業リハビリテーション	中山広宣
6	月 日	職業リハビリテーション 各論 5	精神障害者の職業リハビリテーション	中山広宣
7	月 日	職業リハビリテーション 各論 6	発達（知的）障害者の職業リハビリテーション	中山広宣
8	月 日	職業リハビリテーション 各論 7	現状の問題点と課題	中山広宣

評 価	筆記試験 70 点 レポート 20 点 講義への取組 10 点 60 点以上を合格
教科書	作業療法学全書 第 12 巻 職業関連活動 (ISBN;978-4-7639-2129-1)
参考図書等	
留意事項	グループ学修、アクティブラーニングを主とした講義形式なので学生自身が講義資料を作成するため、事前（2 週間）に資料を作成して、教官に提出して指導を求める 資料がないと講義ができないので期限を守ること
オフィスアワー等	月、金曜日（15 時～16 時）・火曜日（11 時～12 時）研究室 メール等で 2 日前までに事前に予約を取ることをとする。
必修・選択	必修
実務経験	作業療法士として医療機関等に 9 年勤務